

第 96 回 三菱地所総合防災訓練を実施

昨年開業した常盤橋タワーにおける初めての大規模消防訓練や
次世代カメラシステムを活用した情報収集訓練等を実施

三菱地所株式会社は、本日早朝より、大手町・丸の内・有楽町エリア（丸の内エリア）を中心に、三菱地所グループ社員約 2,000 名および関係先が参加する総合防災訓練を実施しました。本訓練は、三菱合資会社地所部が 1923 年（大正 12 年）の関東大震災時に、同年に竣工した旧丸ビルを中心に救護活動を行ったことを契機としており、今年で 96 回目（1926 年（大正 15 年）より実施）を迎えます。なお、千代田区医師会や丸の内消防署との共同訓練等の実地演習を含む総合防災訓練は、3 年ぶりの実施となります。

本年度は、在宅勤務が普及している実態を踏まえ、災害時の対応可能人員が限られる環境下（5 割減）で社員の安否確認およびエリア防災のための非常災害体制組成を行ったほか、全国約 40 物件にて同時に帰宅困難者受入・仮救護所設営訓練を実施しました。

また、当社は丸の内エリアのカメラ映像を一括で制御・管理できる[次世代カメラシステム](#)を 2021 年度末より順次導入しておりますが、災害時の広域安全管理方法の検証を目的として、カメラ設置ビルの映像を災害対策総本部に映し、情報収集を行いました。

併せて 2021 年 6 月に竣工した常盤橋タワーでは、東京消防庁丸の内消防署および丸の内消防団と連携し、はしご車を活用した救助訓練や一斉放水を含む一連の消防演習を実施しました。当ビルにおける大規模消防訓練は初めての取り組みとなります。



次世代カメラを活用した情報収集訓練



常盤橋タワーにおける大規模消防訓練

当社では、平素より独自の災害対策要綱を策定し、建物等の耐震化等の各種災害予防策のほか、非常用資機材の配備、食糧備蓄及び災害発生時の非常災害体制の編成など、大地震等の災害への対策を講じています。当社は、今後も千代田区・所轄消防署や各ビルのテナント企業の皆様の協力のもと、非常時にも十分な体制が構築できる安全・安心なまちづくりを目指します。

<2022 年度の主な総合防災訓練内容>

① 出社人数の実態に即した「非常災害体制」組成

当社は、大地震等の発生により人命および当社関連諸施設に多大な被害が生じた際、速やかにエリア防災対策を講じるための「非常災害体制」を組成し、一丸となって応急措置に当たれるよう、社内体制の構築をしています。今回はハイブリッドワークを前提とした、災害発生直後の対応可能人員が限られる環境下（5 割減）での組成訓練を実施し、発災直後の初動対応、被災情報収集・伝達訓練、社員の安否確認や模擬消火などを行いました。

② 全国約 40 物件にて帰宅困難者受入・仮救護所設営訓練を一斉実施

全国各エリアに所有する約 40 物件において、災害発生後の帰宅困難者受入場所・仮救護所設営をエリアごとに複数物件同時に実施する訓練を行うことで、広域災害発生時の体制・要員に係る検証と各現場指揮、及び対応・連携の強化を図りました。

③ 災害時医療連携訓練や消火訓練、VR 防災車体験などの実施

千代田区医師会と連携し、災害時医療連携訓練を実施。地域の医師と連携し、仮救護所の設置、処置優先度を定めるトリアージ、応急救護といった災害時の医療連携の流れを確認しました。また、実際に当エリアワーカーに参加いただき、行幸通りにて消火器・消火栓操作訓練や VR 防災体験車を使用した体験型訓練等を行いました。



煙ハウス体験の様子



消火器訓練の様子



VR 防災体験車の様子

④ 次世代カメラを活用した災害時のエリア防災検証

当社は丸の内エリアのカメラ映像を一括で制御・管理できる[次世代カメラシステム](#)を 2021 年度末より順次導入しておりますが、災害時もエリア全域の被災状況の迅速且つ的確な把握を行い、安全対策への活用を見据えています。今回、災害対策総本部において、丸ビル、新丸ビル、丸の内オアゾ、三菱ビルの映像を活用した情報収集を行い、災害時の広域安全管理方法を検証しました。



次世代カメラを活用した災害対策総本部の様子



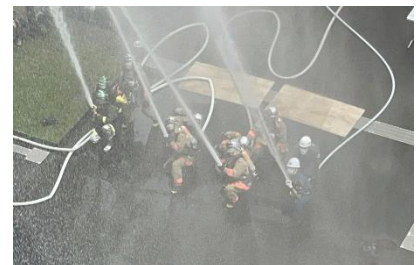
次世代カメラ活用イメージ

⑤ 常盤橋タワーにおける大規模消防訓練

常盤橋タワーにおいて、東京消防庁丸の内消防署および丸の内消防団と連携し、はしご車を活用した救助訓練や一斉放水を含む一連の消防演習を実施しました。常盤橋タワーでの大規模消防訓練は初となります。



はしご車を活用した救助訓練



放水訓練の様子